

ユニセフ T・NET 通信

2009 SPRING

No.42

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

募金口座▶郵便振替:00190-5-31000 (財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

お母さんと赤ちゃんが
ともに生き延びるために

—「世界子供白書 2009」からの報告—

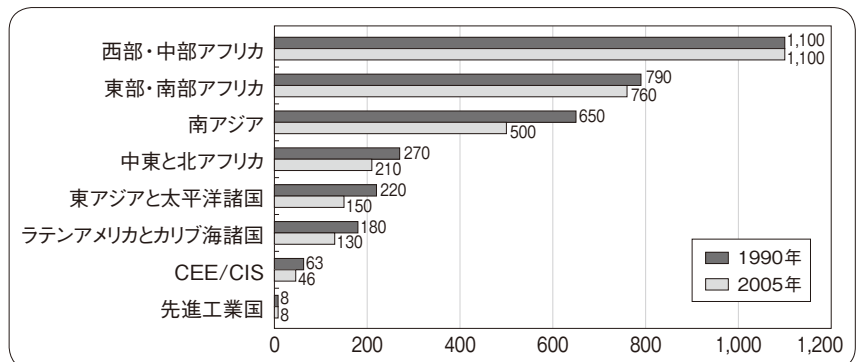
家族にとって喜びに満ちた子どもの誕生。しかし、開発途上国の母親と新生児にとっては、危険をともなう命がけのときでもあります。1990年以来、世界の妊産婦死亡数は推定で年間50万人。過去19年間で約1,000万人の妊産婦が妊娠・出産によって死亡しています。「世界子供白書 2009」は、“妊産婦と新生児の保健”がテーマです。女性と産まれてくる尊い命を救うために、今何が必要とされているのでしょうか。

©UNICEF/NYHQ2006-2706/Noorani
生まれたばかりの赤ちゃんを抱いている18歳の母親 (バングラデシュ)

2 005年のデータによると、後発開発

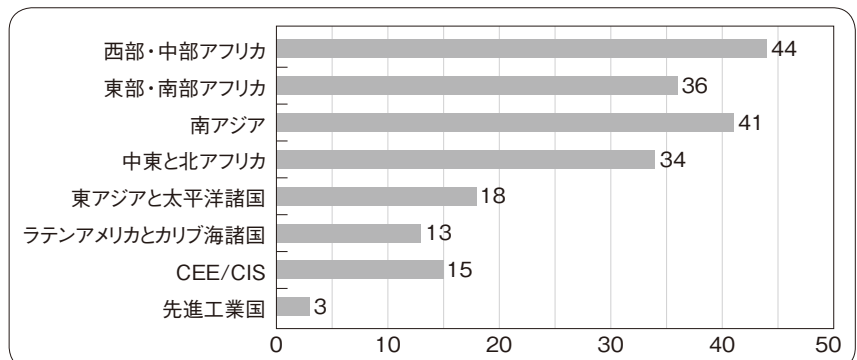
途上国の女性が妊娠や出産に関連する周産期の合併症で亡くなる確率は、先進工業国の女性に比べ、300倍以上も高くなっています。そして、子どもの状況を見ると、生まれた子どもが一番命を失いやすいのは出生後間もない時期です。現在、5歳の誕生日を迎える前に亡くなる子どもはおおよそ920万人、そのうち370万人の子どもは新生児 (出生後28日以内の乳児) です。【図1】【図2】に示されているように、妊産婦と新生児の死亡は、アフリカとアジアに集中しています。現在、妊産婦死亡の95%、新生児死亡の90%はこの二つの地域によって占められています。妊産婦の死亡原因は、出産後の出血や感染症、難産、流産による合併症、新生児の死亡原因は、敗血症や肺炎などの感染症や早産などですが、これらはほとんどの場合、予防や治療が可能なものです。

【図1】 妊産婦死亡率、1990年と2005年 (出生10万人あたりの妊産婦死亡数)



出典: WHO, ユニセフ, 国連人口基金, *Maternal Mortality in 2005: Estimates developed by WHO, UNICEF, UNFPA and the World Bank*, WHO, Geneva, 2007, p.35より作成

【図2】 出生1,000人あたりの新生児死亡数、2004年



出典: WHO, 人口動態統計と世帯調査を利用した統計より作成

* サハラ以南のアフリカは西部・中部アフリカと東部・南部アフリカを合わせたものである。

妊産婦と新生児の死亡の背景にあるもの

妊産婦と新生児が命を失う背景には、貧困、社会的排除、ジェンダーによる不平等、政治不安などの社会問題があります。若い女性たちの教育や知識の欠如は、妊娠・出産の危険を高め、出産に対する文化的な慣習や態度もしばしば母子の健康の妨げになります。妊産婦が安全な出産をし、新生児が健やかに成長するためには、そうした社会的要因も同時に解決していかなければなりません。



©UNICEF/NYHQ2005-2374/Khemka
若いお母さんたちを対象とした子育て講座(インド)

ライフサイクルに合わせたケア

妊産婦と新生児にはそれぞれのライフサイクルに合わせた継続的な支援が大切です。南アジアの若い女性に多くみられる栄養不良は女性、新生児の両方の健康を脅かします。女性は妊娠前から葉酸や鉄分の補給、バランスの良い食事が必要です。また、産後のビタミンAの補給や早い時期からの完全母乳育児は、子どもを病気から守ります。母親と新生児を感染症から守るためには衛生的な出産環境も欠かせません。



©UNICEF/NYHQ2007-1493/Khemka
貧血をわずらっている妊娠9ヶ月の女性。訪問による定期健診を行う助産師から栄養剤をもらっている。(ネパール)



©UNICEF/DJBA00265/Pirozzi
検診を受ける妊婦(ジブチ)

また、出産には専門技術を持つ人が立ち会い、緊急時に対応できることや出産後にもケアを受けられることが大切です。専門技術を持つ保健従事者の介助を受ける割合が低い南アジア(41%)とサハラ以南のアフリカ(45%)では、妊産婦と新生児の死亡率も高くなっています。出産時のケアや母親の健康そのものが生まれてくる赤ちゃんの命にかかわるのです。

* * *

ユニセフは、妊産婦が妊娠中に検診を受け、破傷風の予防接種を受けたり、感染症を予防するための診察を受けたり、合併症についての知識を得たりできるように支援しています。また、女性たちに出生間隔を空けることや、完全母乳育児の大切さを伝えたり、病院のスタッフや保健員を対象として研修を実施しています。

ユニセフは、妊産婦の出産前から出産後までの一連のケアを保障し、母親と新生児の保健を改善できるように、政府やNGOと協力しながら、努力を続けています。

——母親と新生児の生命を救うためには、医療活動以上のものがが必要です。女子教育は、妊娠・出産とその後の保健を改善し、さらに家庭と社会にも恩恵をもたらすのです。——

ユニセフ事務局長 アン・ベネマン



世界子供白書2009のご案内

「世界子供白書2009」日本語版は、現在製作中です。英語版については、下記URLよりPDFのダウンロードをお願いいたします。

http://www.unicef.or.jp/osirase/back2009/pdf/090115_1.pdf

お問合せは
学校事業部へ

TEL: 03-5789-2014 FAX: 03-5789-2034
E-mail: se-jcu@unicef.or.jp